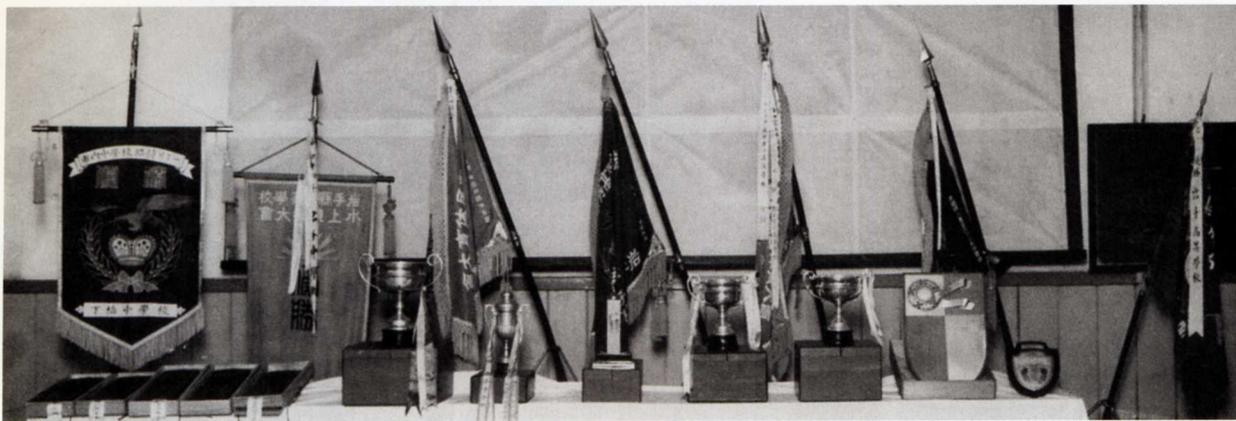


「われらの時代」(見開き一覧表)について (総括)



林立する優勝旗、優勝カップ

1. この季節、ライトアップで夕闇に映える古城(盛岡城)の姿は素晴らしい。又日頃の活躍ぶりから敬愛してやまない同窓の高橋克彦氏は、丁度一年前、「ぼくらの時代展」を催し、昭和30年代の盛岡を甦らせ、楽しませてくれた。

この際、半世紀前の「われらの時代」(中・高6年。昭和20年代)を少しライトアップすることとした。

若くて元気だった頃を回想することは、いいことだ。(回想法)この表が、各位の回想、回春(リフレッシュ)の一助となれば幸いである。

一甦る 青春の息吹 同期会一

2 この表は、主として「石桜50年史」、「石桜70年史」、「石桜新聞」等を参考にして作成した。「見開き1枚」を良しとしたので、スペースに限界があり、※印の関係資料で補足することとした。豊富な活動実績でそのとりまとめに苦慮したが、不十分な点はご容赦願いたい。

なお、連戦連勝で我々を喜ばせ、士気を鼓舞してくれた野球部の活躍ぶりについては、昨年刊行の岩高野球部史から引用した。

3 ともあれ、今改めて我々の中・高6年間の活動を総括すると、全ての面で、質量共に極めて充実したものであり、以下の事柄等からみて、我々岩中22期・岩高5期生は、文武両道で一定の成果を挙げることが出来たつわもの、少数精鋭の軍団であったと確信し、自負したい。この際、改めて恩師、先輩諸兄に感謝し、後輩諸君の健闘

を祈りたい。

一バトン受け 走って渡して 今七十一

- (1) 田村寿君を始めとする多くの仲間が日報学力テスト等で立派な成績を示したこと。
- (2) 各種の文化活動でリーダーシップを発揮したこと。
- (3) 各種の体育活動で獅子奮迅の活躍ぶり示したこと。

・我々が主力となった1951年(高二)の高総体で全日制高校総合第二位、1952年(高三)の高総体で同総合第二位(一位に0.5差)となった。なお、この時期、高総体、県体等の場で、人気の硬式野球部を始め、ラグビー、水泳、体操、庭球、排球、籠球、水球、アイスホッケーの各種目で優勝旗を手にした。送球は準優勝、陸上は総合第三位、その他の種目もベスト4、ベスト8であった。(因みに、ライバル盛岡一高の生徒数は、本校の3倍強であった。)

・個人種目では、陸上、水泳、体操を始め各種目での優勝・入賞は、枚挙にいとまがない。

・東北大会、インターハイ、国体等に多数の仲間が出場し、次の成果を得た。

「東北大会 背泳100m 優勝 村井良和」ほか
 「インターハイ 体操跳馬 第三位 村上 昇」ほか
 「国体 アイスホッケー 第三位 岩手高校」ほか

一石桜の つわものどもが 夢のあと一

(村上 昇)



S.26 広島
第6回 国体参加章



S.27 宮城、山形、福島
第7回 国体参加章



S.26 水戸インターハイ
体操 銅メダル

新制岩手中学と岩手高校の誕生

昭和21年11月3日に公布され、翌22年5月3日から施行された「日本国憲法」の精神に基づき、教育の分野でも改革が行なわれた。すなわち、昭和22年3月31日に「教育基本法」と「学校教育法」が公布・即日施行され、これによって小学校6年間・中学校3年間の義務教育が発足、更に高等学校3年間・大学4年間の学校体系が整えられた。いわゆる六・三・三・四制の誕生である。

私立中学として20余年の伝統を持つ岩手中学も、新しい学校制度にのっとりた変革を余儀なくされた。まず昭和22年3月27日に新制の岩手中学校への移行を申請し、同年4月の新学期から義務教育としての中学教育が始まった。また翌23年の2月26日には岩手高等学校の設立を申請、3月19日に認可された。

こうして昭和23年度の新学期には、新制の岩手中学と岩手高等学校の両校が揃った。いっぽう、昭和22年春に各市町村が慌ただしく新設した公立新制中学校の多くは、施設の面でも職員に関しても、極めて不十分な状態で発足せざるをえなかった。したがって、これに比べると旧制中学の伝統を持つ本校は遥かに恵まれた立場にあり、事実上6年間の一貫教育を旧制以来の施設と職員で比較的円滑に行なえる体制が備わったのである。

中学進学生を持つ県内各地の父母の間に、子供を地元の急造公立中学校に行かせるよりも、むしろ伝統があり態勢の整っている岩手中学に入れたい気持ちが生じたのは当然だった。昭和22年度から数年間、岩手中学への入学志望者が殺到するという現象が見られたのである。市内名門小学校の優等生が、岩手中学の入試でふり落とされるという事例さえ生じた。昭和22年には定員100名に対し応募者が249名に達し、入試の結果110名だけが合格した。23年には定員100名に対してじつに294名が応募し、内127名だけが合格している。

その生徒たちが岩手中学・岩手高校の6年間一貫教

育を受けて高校3年生になったのは昭和27年以降だが、その中の一人、田村寿は、27年8月の岩手日報主催学力コンクールで県下二位を占め、28年1月の同コンクールでも四位になって万丈の気を吐いた。また、28年6月に行なわれた東大学力増進会主催の模擬進学適性検査全国コンクールで、三年の松野淳一が92点という驚異的な得点をあげて全国一位になった。なお、前記の田村寿は東京大学理科三類に、また松野淳一は東北大学理学部に、それぞれ入学している。この兩名以外にも、彼らの多くが東大・京大・東北大をはじめとする国立大学、また早稲田・慶応をはじめとする一流私立大学に合格し、岩高の名を天下にとどろかした。中・高一貫教育の長所が遺憾なく発揮された時期だったのである。

岩手日報

2004年(平成16年)4月2日(金曜日)



振り返るべきまは四月が
あつた。
まずは一九四一(昭和十
六)年の四月、この月
から小学校が「国
民学校」に変わり、
私は国民学校一年生になつた。
六年生を卒業した四七年三月に
国民学校がなくなつたので、私
たちは国民学校最初の入学生で
最後の卒業生、小学校を知らな
い。

国民学校は、戦時非常態勢の
もとで「国民精神を涵養し、皇
國の使命を自覚させること」を
目的に発足したもので、教育勅
諭による「臣民としての道」の
「鎮成」がその中心であつた。
この時から児童は「小国民」
と呼ばれるようになり、教科書
も「サイトウ サイトウ サクラカ
 サイトウ」から「アカイ アカイ
 アサヒ アサヒ」に変わった。
米國との戦争が
始まつたのは、
その年の十二月
八日である。
戦争が終わり教育勅諭が廃止
されて、教育基本法のもとに六
・三・三制の新しい学制が始ま
つた四七(昭和二十二)年四月
「新制中学校」に入學した。教
科書もぐくになつたように
「新編」が、新しい時代がこれから
始まる、という幕開け前の舞團
(木)

国民学校から新制中学と、私
たちの年代は新しい制度が始ま
るたびに一年生だつた。教育の
転換期にあつて、新旧のはさま
にいた。

四五年八月十五日をはさんで
日本という國がガリと変わつ
たのだから、上の世代の人たち
も同じような経験をしているの
だが、私たちの場合は奇妙な巡
り合わせ、とでもいうのか。
「みんなで勉強うれいな
国民学校一年生」という歌を覚
えている。その勉強は建國神話
であり「ススメ ススメ ヘイ
 タイ ススメ」であつた。

おれらの時代(昭和)の教育—資料—について(続前)
主眼の対高年層と学年主任師



1甲



1乙

山菜採り休日

戦後の食糧危機は深刻だった。昭和二十一年五月に米の配給が止まり、代りに砂糖・大豆・大豆カス・魚・トウモロコシ粉・干ブドウ・干アンズなどが、ほんの少しずつ配給された。市民の食生活は底をつき、人々は食糧の買出しに狂奔した。古間木方面へジャガイモを求めに行ったり、奥中山や山田線の区界・浅岸方面へ山菜採りに出かけた。りした。

このような食糧危機に対処するため、本校では、山菜採り休日なるものを設けた。これは、ほかの学校でも実施されたが、数日間臨時休業とし、生徒にワラビ・ゼンマイ・フキなどの山菜を採る機会を与えて、家庭の食糧確保にいくらかでも役立たせようというものだった。二十一年度は五月二十七日から三十日まで、二十四年度は五月二十九日、二十五年度は五月二十八日、二十六年度は五月二十八日、二十九年の二日間が、それぞれこの山菜採り休日だった。

年令別短縮マラソン大会

日時 十月十六日

一、區分

参加人員

A組 十七才以上のもの

一二六名

B組 三、四、五年の十五、十六才のもの

一四二名

C組 一、二年の十五、十六才のもの

一二〇名

D組 十三、十四才のもの

八九名

學級對抗—驛傳競争

代表者 三〇名

一、コース

A組 學校—長町—新築地—大澤河原—下の橋—大清水小路—明治橋—吳服

町—中の橋—内丸—仁王—新山小路—長町—學校

B組 學校—夕顔瀨—館坂—踏切—石川家

C組 學校—材木町—櫻城校前—大通—御田屋清水—女師横—内丸—仁王

D組 學校—長町—上田郵便局前—專賣局—上田—放送局—高農横道—梨木

町—學校
入賞者(六組十位迄)

A組

1 彌勒地 武彦 五丙 二四・四分

2 久保田 昭 四丙 二四・三分

3 袴田 茂 四丙 二四・九秒

4 佐藤 康弘 五乙 二四・一四秒

5 淺沼 正夫 五丙 二四・二三秒

6 金野 敬一 五丙 二四・二四秒

7 藤村 司 五乙 二四・五七秒

8 川村 英雄 四乙 二四・五八秒

9 小綿 輝雄 四甲 二五・〇五秒

10 中村 孝 四甲 二五・二〇秒

B組

1 諏訪 弘志 四甲 二四・六秒

2 鎌田 元次 三丙 二四・一一秒

3 加藤 紀一 四甲 二四・二〇秒

4 杉本 亘也 三丙 二四・二八秒

5 横澤 武美 三甲 二四・三五秒

6 細田 勇吉 四乙 二四・五一秒

7 佐藤 章 四丙 二四・五二秒

8 佐々木 稔 三甲 二四・五四秒

9 佐藤 光裕 三丙 二五・三秒

10 石戸谷 克彦 三丙 二五・一〇秒

C組

1 鈴木 藤吉 二丙 一三・三四秒

2 田中美徳 二甲 一三・三五秒

D組

3 佐々木 剛 二甲 一三・四六秒

4 福田 博臨 二甲 一四・四秒

5 小武方 信一 一甲 一四・一〇秒

6 乙茂内 春久 二丙 一四・一七秒

7 岩淵 一義 二丙 一四・二三秒

8 高山 一元 二乙 一四・二七秒

9 森田 長二郎 二甲 一四・二八秒

10 若原 正治 二乙 一四・二九秒

1 佐々木 健夫 一乙 一四・四六秒

2 花坂 宗三 二乙 一四・四七秒

3 小泉 明夫 一乙 一四・五一秒

4 岩淵 皓一 二甲 一四・五四秒

5 瀬川 雅三 一甲 一四・五四秒

6 佐々木 美郎 一甲 一四・五六秒

7 本堂 親彦 二甲 一五・一〇秒

8 工藤 大 二乙 一五・一四秒

9 大志田 左千男 一甲 一五・一七秒

10 遠藤 太紀雄 二乙 一五・一九秒





石桜会功労章受章者一覽

番号	学年	氏名	受章年月日	功績区分
1	五年	西在家 寛	昭和22年12月20日	文化
2	五年	山口 謹一	昭和23年 3月 6日	文化
3	高三	鳴海 正人	昭和24年 3月12日	体育
4	高三	小野寺 由也	昭和24年10月 3日	文化・体育
5	高三	小林 陵二	昭和25年 9月30日	体育
6	高三	宮手 毅	昭和25年 9月30日	石桜会役員
7	高三	八重樫 昌宏	昭和26年10月 1日	石桜会役員
8	高二	小武方 信一	昭和27年 3月15日	体育
9	高三	田村 寿	昭和27年10月27日	石桜会・文化
10	高三	村上 昇	昭和27年10月27日	体育
11	高三	佐藤 忠三	昭和28年 3月 1日	体育
12	高三	村井 良和	昭和28年 3月 1日	体育
13	高三	照井 哲	昭和28年 9月30日	体育
14	高三	松野 淳一	昭和28年 9月30日	文化
15	高三	岩脇 章夫	昭和29年 3月 1日	体育
16	高三	遠藤 政二	昭和29年 3月 1日	文化・体育
17	高三	北田 一平	昭和29年 3月 1日	体育
18	高三	村井 健祐	昭和29年 9月30日	体育
19	高三	古川 知義	昭和30年 3月 1日	文化
20	高三	吉田 栄一	昭和30年 3月 1日	文化

—以下略—

(参考) 平成16年10月現在 (個人97号/団体20号)

水泳

・県中体連大会 総合優勝

- 自由 400m 2位 丹内憚海
- " 800m 2位 丹内憚海
- 平泳 100m 3位 佐々木一彦
- " 200m 3位 佐々木一彦
- 背泳 50m 1位 村井良和
- " " 2位 吉田義輝
- " 100m 1位 村井良和
- " " 2位 吉田義輝
- 300mメドレー 1位 岩中

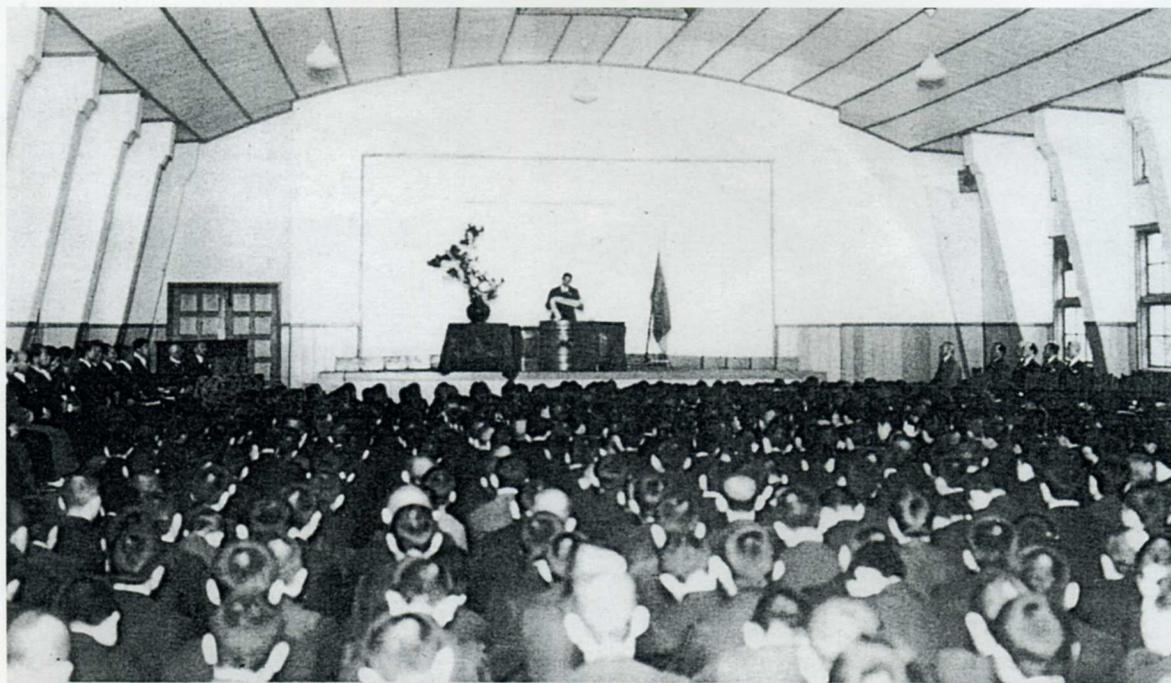
陸上

・盛岡近郊中学大会 総合優勝

- 400m 2位 瀬川雅三
- 800m 2位 菊池佑治
- 800mハードル 2位 瀬川雅三
- 砲丸投 3位 下河原善嗣郎
- 円盤投 1位 森英雄
- 走巾跳 3位 久慈茂貴
- 三段跳 1位 久慈茂貴
- 800mリレー 1位 岩中

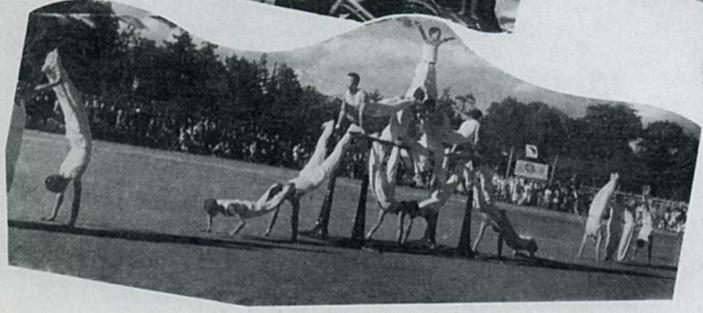
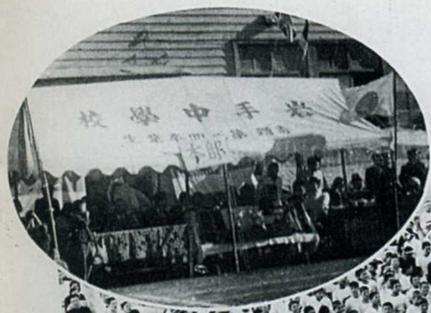
・盛岡市内中学大会

- 400m 1位 瀬川雅三
 - 80mハードル 1位 瀬川雅三
 - 砲丸投 2位 下河原善嗣郎
 - 走巾跳 1位 久慈茂貴
 - 三段跳 1位 久慈茂貴
 - 800mリレー 2位 岩中
- (菊池佑治、瀬川、久慈、岩脇)



新生の意気に燃えた創立25周年記念式典

大運動会





書道展



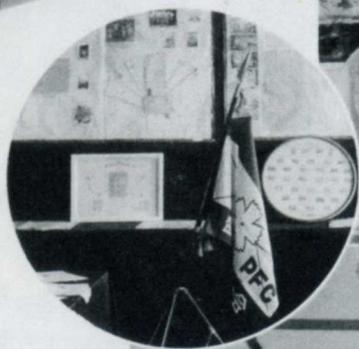
絵画展



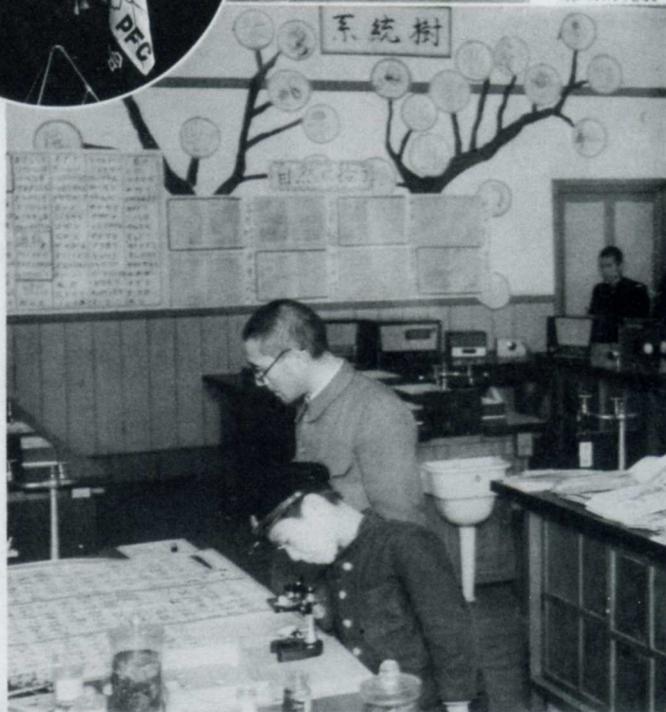
郷土研究展



山岳展



PFC展



科学展



弁論大会

大戦の可能性と原爆 三村村松 武
自らの自覚 三村村松 武
学問の要求 三村村松 武
心の平和 三村村松 武
科学の発展と意義 三村村松 武
平和の理想 三村村松 武
高教の理想 三村村松 武
私生活の理想 三村村松 武
青年の理想 三村村松 武
社会の理想 三村村松 武
教育の理想 三村村松 武



東大寺にて



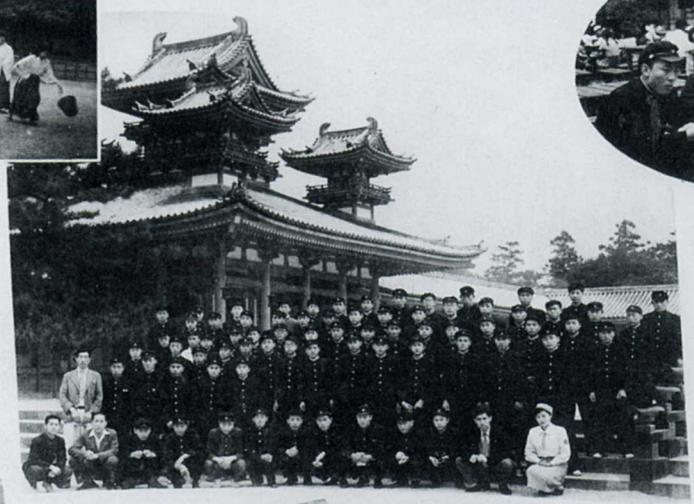
春日神社にて



神子さん



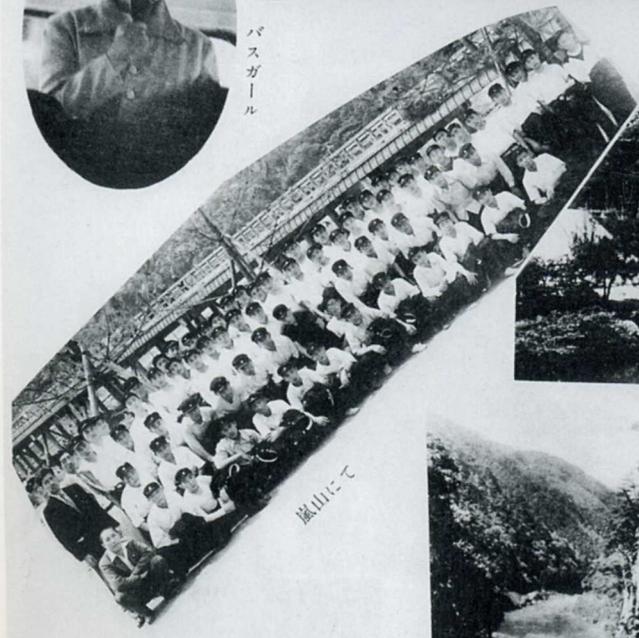
甚 食



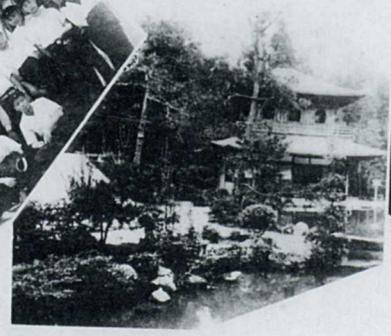
平安神宮にて



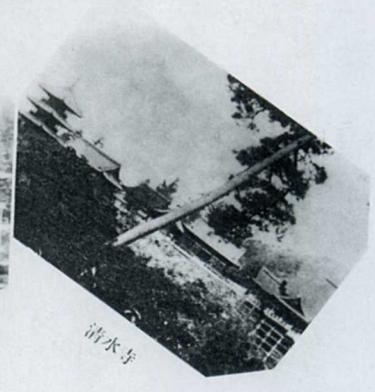
バスガール



嵐山にて



銀閣寺



清水寺

